

水質汚濁による病気、世界に広がる水不足、頻発する洪水、干ばつや砂漠化、水をめぐる紛争…。いま、私たちは水にまつわる数多くの深刻な問題に直面しています。

これを解決する糸口を見出し、新たな行動を起こすために、来年三月には、滋賀・京都・大阪を会場として「第3回世界水フォーラム」が開催されます。これに先立ち、滋賀県理事員(環境担当)第3回世界水フォーラム事務局上級アドバイザー田口宇一郎さんにお話をお聞きしました。

「環境人リレーインタビュー21」③

滋賀県理事員(環境担当)
第3回世界水フォーラム事務局上級アドバイザー

田口宇一郎さん

世界に眼を向け、行動すべき時が来ている

最初に、来年三月開催の「第3回世界水フォーラム」に向けての第3回世界水フォーラム滋賀県委員会のビジョンやバックボーンになるお考えなどをお聞かせいただけますか。

田口 一九八四年に第1回会議を滋賀で開催し、世界各地をめぐる二十一世紀の幕開けとともに再び発祥の地・滋賀で、「里帰り会議」として、昨年十一月

に第9回世界湖沼会議が開催されました。今回の会議では十七年前に比べて琵琶湖をはじめ、世界の湖の現状がどのようになっているのかを振り返り、真摯な反省を込めて率直な議論が行われました。そして、第1回会議で採択された「琵琶湖宣言」、一九九五年の第7回会議で採択された「霞ヶ浦宣言」が、現在においても重要な提案であることを再認識

すると同時に、望ましい湖沼環境再生にむけての懸命の努力にもかかわらず、依然として環境悪化が続いている世界湖沼の現実を踏まえ、旧「琵琶湖宣言」に「統合的流域管理の推進」と「資金調達に関する諸方式の検討」の二項目を加えた「琵琶湖宣言2001」が採択されました。

この宣言の精神を「第3回世界水フォーラム」にしっかりと引き継いでいかなければと考えています。今回の世界水フォーラムではこれまで二回の会議での議論を踏まえ、水問題を解決するための具体的な行動に結びつく議論がなされ、「水行動報告書」が採択される予定となっています。この中で、琵琶湖をはじめとする湖沼の保全、再生には流域全体を視野に入れた統合的管理が必要であり、その

ため流域に関わる国家間、国と地方自治体間、地方自治体間、および上・下流域間の連携と相互理解のもと、それぞれの役割分担を明確にし、流域単位で統合的に湖沼環境の再生に取り組む方策について議論をリードしていくべきだと考えています。フォーラム開催期間中は滋賀でも数多くの分科会が開催されます。ぜひ、この機会に「湖沼保全」についての具体的な議論が集中して行われ、上・下流が一体となった湖沼保全のための取り組みの必要性と具体的な取り組みが、「水行動計画」に位置づけられるよう積極的に働きかけて行きたいと考えています。

開催場所は滋賀・京都・大阪の三カ所ですが、これは琵琶湖・淀川流域という一つの巨大な流域を視野に入れたものであると考えればよいのでしょうか。

田口 そうです。第1回はモロツコのマラケシュ、第2回はオランダのハーグ、第3回の開催地がアジアモンスーン地域の日本で開催されることとなり、流域という視野から水環境の保全に熱心に取り組んでいることが評価され、琵琶湖・淀川流域が選ばれたのです。

世界にまで視野を大きく広げて水問題を考える格好の機会

そういう意味でも先程お話された琵琶湖というものが大きなウエイトを占めることとなりますね。湖沼があつての流域

なのですから……。ところで、日本の水環境というのは、世界的に見てどのような位置にあるのでしょうか。

田口 日本では、どちらかというと質の面でいろいろ心配されていますが、世界的に見ると、量の確保が問題です。また、質においても日本とは比べものにならないほど汚染された水を使わざるを得ないような状況にある国や地域が非常に多いのが現状です。貧困の中で日々の飲料水や生活用水をどのように確保していくかが、非常に大きな問題になっています。このような意味においても、私たちはもっと「水」という欠くことのできない資源に幅広い関心を持たなければならぬと思います。「水議論の壮大なマーケット」それが、世界水フォーラムです。さまざまな人々がそれぞれの分野や立場に立った視点からの主張と、立場を越えた対話が行われます。世界にまで視野を広げて水問題を考える格好の機会になればと願っています。

世界と日本の水環境のお話が出ましたが、地元滋賀県における水環境状況や施策などをお聞かせ願えますか。

田口 琵琶湖の出口は瀬田川と京都疏水しかないわけですから、一旦長雨が続きたり、台風が来たら琵琶湖の水位が急激に

上がり、田畑や家屋等が頻繁に浸水しました。このため、瀬田川の疎通能力を高めるための浚渫をめぐる「争い」の歴史が延々と続いてきました。また、山々を守るということが水を守るのだということで、田上山の禿げ山の周辺を甦らせるなど、植林事業が積極的に行われてきました。そうした私たちの先人の努力を決して忘れてはなりません。そして昭和四十七年度からスタートした、琵琶湖総合開発では治水、利水、保全を三本柱にした事業が推進され、水質保全に欠かせない下水道事業も急激に進み、わずか三十年ほどで下水道の普及率が全国のベストテンに入りました。しかしながら、琵琶湖の水質はと申しますと、依然横ばいの状況です。この間に人口が八十万から百三十五万人に増えていることからすれば、横ばいという

人口の急増、産業の著しい発展によって水不足が増大しており、現在、アジア、アフリカなど31カ国で水の絶対的な不足に悩んでいます。また、水不足が深刻な食糧不足をもたらしている地域も広がっています。

水が原因で、年間500万～1,000万人が死亡

12億人が安全な飲料水を確保できない

8億人が1日2,000カロリー未満の栄養しか摂取できない

2025年には48カ国で水が不足する見込み(国連資料)



のはそれなりに評価できるのかもかもしれませんが、それが回復に向けての努力がまだまだ求められます。そこで平成十二年三月に、琵琶湖総合保全整備計画「マザーレイク21計画」を新たに策定して、二十年后には昭和四十年代初めのきれいな水質を取り戻そうと県民総ぐるみによる琵琶湖の総合保全の取り組みをスタートさせました。

話は変わりますが、前回の湖沼会議の時に大学生の方々もボランティアで積極的に参加しておりましたが、たとえば新世代の方々に対するご要望などはあります。

田口「マザーレイク21計画」では、自分たちの身近な河川や自然環境を守ることにひいては琵琶湖の保全につながることであるという考え方のもと、県民一人ひとりがそれぞれの河川流域毎に身近な目標を設定し、みんなの手で河川や琵琶湖を守っていくことを提唱しています。流域単位で協議会を設置してアジェンダづくりが始まっています。こうした取り組みが活発になり地域ぐるみの水文化として定着することが大変重要です。

その一方で、理屈抜きで琵琶湖のファンを増やしていくことも大切だと思っています。平成十年度の「We Love びわ湖」TV放送をきっかけに、番組出演者や県内各界の人たちがボランティアで集まり、琵琶湖の魅力や価値を伝え、県内外の琵琶湖ファンを獲得しようという



運動が始まりました。その中で、We Love びわ湖の会のメンバーや行政が、BSP（びわ湖ソング・プロジェクト）を結成し、「宇宙船BIMAKO号」のCDを出すなど「We Love びわ湖」の気運も盛り上がり、多くの若者を中心に、県内でのライブ活動をはじめ、大阪の天神祭で、びわ湖のPRをするなど、幅広い取り組みが展開されています。まさに民間レベルで上・下流が一体となり母なる琵琶湖を守ろうという「うねり」であり、そのうねりがだんだんと大きな広がりとなっていくためにも、今後若者のエネルギーに大いに期待します。

増え続ける地元地域での多彩な活動地道な努力の継続が何よりも大切

現状をご覧になっていて、皆様の保全の意識は他と比べてどうですか、かなり高いと感じますか。

田口 それぞれの地域でいろいろな取り組みが行われています。たとえば、赤野井湾流域ではシジミや蛸をもう一度取り

戻そうという身近な目標を掲げて環境の改善に取り組んでおられます。このような活動は数多くみられ、しかも年々広がりを見せています。このような、地道な努力が何よりも大切です。「第3回世界水フォーラム」の開催によって内外から数多くの方々が滋賀県にいられて、それぞれの国や地域での水環境保全に向けた最新の情報を持ち寄り、立場を越えた対話が行われることは、私たち県民にとって、きっと大きな刺激になるものと思います。

県民の方々が「第3回世界水フォーラム」に参加することはできるので、田口 できます。また、自分たちでプログラムを立ち上げて、さまざまな方々と水環境に関する討議を積極的に行っていたら、ただそれと願っています。すでに、そのような動きが出てきています。フォーラムをはじめ、いろいろなセッションをやるということ、たとえば、東近江水環境自治協議会の方々が中心となつて、多くの人々の参加でヨシ舟づくりが始まっています。また、世界湖沼会議の時も創作狂言を行っていただいたのですが、それを新たにもう一本作って発表しようという準備が始まっています。さらに、地元の企業で水環境の保全に取り組んだり、あるいはもつと積極的にエコビジネスにつなげていこうとがんばっていたところも数多くありますが、これらの企業の皆様にも、積極的にご参加

人口増加や産業発展に対し、下水道等の衛生設備の整備が追いつかない途上国を中心に水質汚濁が問題となっています。

途上国における病気の80%の原因は汚れた水

水がかかわる病気で、子供たちが8秒に1人ずつ死亡

世界人口の50%に対し、衛生設備が未整備

淡水魚の20%の種は、水の汚染により絶滅の危機（世界保健機関資料他）

いただければと願っております。今度の水フォーラムでは経営責任者によるパネルも計画されています。また、最近、びわ湖環境ビジネスメッセの開催などを通じて、環境保全をテーマにしたエコ製品やシステムの開発も盛んになってきていますので、この機会に情報交換をはじめ積極的な交流を図っていただければと思います。

人口は激増するが水は限りある資源
日本は世界有数の水の輸入国

「世界水フォーラム」は、世界の各地に見られる「水や食糧の不足」「水質汚染による不衛生な生活環境」「洪水の危機」など、水に関するあらゆる問題を解決するためにスタートしたわけですが、世界の状況はかなり深刻なのでしょう。

田口 六十億の世界の人口の二割にあたる十二億の人々が、安全な水を確保できずに困っているといわれています。これから人口は増えるけれども水は増えない。そうすると、飲料水としての水も、食糧増産のための水も、さらに必要になるわけですから、このままでは状況はますます悪化します。現在、日本では食糧の四〇%を海外に依存しています。これから食糧の生産に要する水の量は膨大なものになります。さらに、工業製品や木材の輸入までを含めると日本がどれだけ多くの水を世界から輸入しているかが想像されます。このことを、琵琶湖・淀川流域にあてはめても同じことが言えると思

います。京都、大阪や兵庫に住む人々に、生活用水や工業用水などの「見える水」のほか、「近江米」や「近江牛」、野菜など多くの農産物や工業製品等とおして、「見えざる水」が供給されています。

あるデータでは、台所から捨てられるゴミの四割が食べ残しと賞味期限切れといわれていますが、これは、輸入した水をそのまま垂れ流しているようなものです。水も他の資源と同じくあるいはそれ以上に、限りある資源なのです。二十一

世紀は水が原因で国際紛争が起こる可能性がきわめて大きいと国連の関係者の方々が指摘されています。水資源の問題は二十一世紀の非常に大きなテーマなのです。地球規模でものごとを考え、一人ひとりが足元の問題から取り組む。これが水環境に対して責任あるこれからの生き方になるのではと考えます。

「第3回世界水フォーラム」では、そのあたりのテーマも細やかに討議されるわけですか。

田口 もちろんです。日本人同士の議論では、このようなテーマが議題になることは少ないかもしれませんが、世界の国々から参加される方々が、それぞれの実情を踏まえて討議されると、これらの深刻な問題が続々と出てくることになりました。世界的な視点にたった時、日本の課題も明白になってきます。その意味でも重要なフォーラムです。今回は三回目のフォーラムになりますので、抽象的な議論ではなく、次代を見つめた具体的な

水行動計画を議論しようという準備が進められています。

貧困と汚水の悪循環
途上国の病気の八〇%は水が原因

実行ですね。そういう意味では二十一世紀の初頭の開催であり、タイミング的にも好機ですね。それにしても、水はすべてのベースになっていることを再認識しました。

田口 たとえば、石油が枯渇したとしても、自然エネルギーなどに転換することも可能ですが、水がなくなれば生きられない。人間そのものが大半は水なので、量だけ確保すれば質のほうは何とでもなる、水質浄化方法は科学的にいってもある、とおっしゃる方もおられますが、私はそうは思いません。マニラの貧民街に住むマニラ大学の女子学生の言葉が心に残っています。「私たちには環境という言葉はありません。朝起きたら、今日一日をどう生きるかということしかありません。家畜の糞尿が混ざった汚水を上手にすくって、飲み水や生活用水に使うしかないのです」。貧困と汚水の悪循環。これが原因で年間一千万人が死亡し、八秒に一人の子供が亡くなっています。途上国における病気の八〇%の原因が汚水です。

ドイツ人の陸水学者が次のように語っています。「水なくして命なし、水なくして文化なし」。二〇二五年に世界の人口が八十億人になり、四十八カ国で深刻な水不足が起きると予測されています。さらに温暖化で干ばつが拡大してきます。たとえば、雨の降らないエジプトでは、水供給をナイル川に完全に依存しています。このナイル川を育む雨の大部分はエチオピアに降っています。そしてこの国の人口は、急速に膨張していますが、急激に増加する人口を養うため、ナイル川上流の水をどんどん使用すればたちまちエジプトは水飢饉に見舞われてしまいます。人口増加や食糧増産などの絡みが、

60億人を突破した世界人口は、
2025年には80億人に達すると予想され、
水不足や洪水などによる被害が増大し、
地域によっては危機的な状況になることも考えられます。
すでに水をめぐる国際紛争にまで至っている地域もあります。



これまでもお話したように、世界各地の流域間で紛争を引き起こす原因になるわけです。… けつして危機感を煽^{あお}っているわけではありません。数多くの最新情報^{あほう}が物語っているのです。繰り返します、このことをしっかりと私たち一人ひとりが認識することから、ほんとうの水問題の解決に向けた取り組みが始まるのです。

日本の国内における状況はどのようなものですか。水不足の傾向は出てきているのでしょうか。

田口 一番気になっているのは地下水です。量的にも質的にも全国的なデータは把握されていないのではないのでしょうか。水に恵まれている地域ほどふんだんに水を使います。でも、なくなる前に気づかないと…。なくなつてからでは遅いのです。ちなみに、府・県別で上水道の使用量が一番少ないのは福岡県です。理由は、もともと水不足に悩まされているからです。ですから、博多などのホテルでも水を無駄遣いしないように、ほとんどが節水装置を付けています。… 次の世代、明日の世界のために、いま私たちが何をしなければいけないのかということ、ほんとうに一人ひとりが考えて、それを実行に移さなければならぬ時が来ていると痛切に感じています。そのためにも、「第3回世界水フォーラム」を実現し多いものにならなければならないと考えています。

第3回世界水フォーラム in 滋賀

「語学ボランティア」募集のご案内

来年三月十六日～二十三日の八日間、世界各国の水の関係者が集まり、世界の水問題の解決にむけて話し合う「第3回世界水フォーラム」が、滋賀、京都、大阪で開催されます。

滋賀会場では、三月十九日から二十一日の三日間、県立体育館、なぎさ公園、ピアザ淡海（大津市におの浜）を会場に、「びわ湖水フェア」（仮称）を開催します。また、フェア期間中の二十日と二十一日は、フェア会場に隣接するびわ湖ホールや大津プリンスホテルで、世界中の水の専門家やNPOなどが集まり、さまざまな水問題解決のために議論する「フォーラム分科会」が開催されます。

「びわ湖水フェア」（仮称）では、水に関するさまざまなイベントを、第3回世界水フォーラム滋賀県委員会と、NPOや一般市民の方々がいつしよになつて開催します。「水といのち・ひと」をテーマに、NPOや一般市民、企業等の方々が、「フォーラム分科会」参加者との交流を通じて、語り学ぶなかで、新しい「水」文化を創造し、全国・世界にむけて発信しようとするものです。

滋賀県委員会では、これらの「フォーラム分科会」や「びわ湖水フェア」（仮称）において、海外からの参加者と県内の参加者や一般来場者との交流のお手伝いをしたいと、「語学ボランティア」を募集しています。

『語学ボランティア』応募の要件

- 募集言語… 英語（英検二級程度以上）
- 活動内容… 「フォーラム分科会」 受付や会場案内、県内観光に関する案内など
- 「びわ湖水フェア」（仮称） 海外からの参加者とフェア参加者・一般来場者への通訳、会場運営のサポートなど
- 活動場所… 大津市内の会場およびその周辺
- 年齢… 十八歳以上（高校生は除く）
- 募集人数… 百三十名

応募方法 詳しくはホームページをご覧ください。

問い合わせ先 左記へもお気軽にお問い合わせください。

第3回世界水フォーラム滋賀県委員会事務局（滋賀県庁内）

住所 〒520-0857 大津市京町四 一

電話 〇七七 五二八 三三五四 〇七七 五二八 四八三一

E-mail dc0001@pref.shiga.jp

URL <http://www.pref.shiga.jp/wf3/>

第3回世界水フォーラム 滋賀・京都・大阪を結んで開催

- 開催日 2003年3月16日（日）～23日（日）[8日間]
- 会場 ・滋賀：びわ湖ホール / 大津プリンスホテル
・京都：国立京都国際会館 / 京都宝ヶ池プリンスホテル
・大阪：グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
- 主催者 フォーラム 世界水会議
第3回世界水フォーラム運営委員会
閣僚級国際会議 日本政府
水のえん 各実行委員会
- 参加予定人数 フォーラム 参加者 / 8,000人～
閣僚級国際会議・参加閣僚 / 120人～
水のえん - 来場者 / 15万人～

